

令和7年度全国高校生体験活動顕彰制度事業

「地域探究プログラム（ちいぷろ！） オリエンテーション合宿 i n 赤城」

1. 趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、探究のプロセスを体験し、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付ける。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和7年8月3日（日）～8月4日（月）【1泊2日】

(2) 参加者

群馬県立富岡高等学校 1年生7名、2年生10名

3. 企画運営のポイント

- (1) 活動の目的や達成目標を明確にし、探究の学びのプロセスを用いて、指導計画とワークシートを作成する。
- (2) 前橋市中央通り商店街を中心としたフィールドワークを行い、参加者の地域課題と共通する内容を扱う。
- (3) 参加校における「総合的な探究の時間」の教育課程と関連させ、本合宿の成果を授業に活かすことができるようにする。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
8月3日 (日)	ワークショップ・講話等① 「地域づくりの理解と課題設定の基礎」 講師：小澤 亮太 氏 (本屋 水紋)	ワークショップ・講話等② 「地域づくりの理解と課題設定の基礎」 講師：奥田 雄一郎 氏 (共愛学園前橋国際大学) 講義・演習① 「地域づくりと探究」	発表①
8月4日 (月)	講義・演習② 「地域課題の探究」 実践活動のためのガイダンス	発表②	

5. 主な活動内容



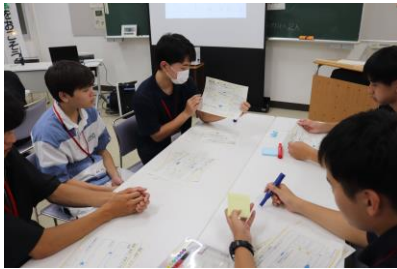
ワークショップ・講話等①
**「地域づくりの理解と課題
設定の基礎」**



ワークショップ・講話等②
**「地域づくりの理解と課題
設定の基礎」**



講義・演習①
「地域づくりと探究」



発表①



講義・演習②
「地域課題の探究」



発表②

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 15 名 (88%) やや満足 2 名 (12%) やや不満 0 名 不満 0 名

(2) 参加者の声

- 課題を解決するだけでなく、自身の興味との結びつきが大切だと知ることができた。
- 普段の授業では考えられないところまで地域について考えることができた。
- 班で課題を考えたり、興味があることを出したりしたことで、自分では思いつかないようなアイデアが出て、視野が広がった。
- 自ら実践できる活動を考えることは難しかったが、地域について深く考えることができた。
- 同じテーマでも着眼点によって解決策が違ってくるのが分かり、改善点に気づくことができた。
- 自分にはない発想にふれることができた。自分の活動に取り入れるとより良い探究ができると思った。

(3) 成果

- 探究のプロセスごとに活動の目的を明確にするためのワークシートを活用したことは、情報の整理や分析、アイデア出し、発表内容を考えるための手段として有効であった。
- 参加者から「前橋中央通り商店街の普段の様子やイベントの様子、商店街の成長など、実際に行かなければわからなかった情報があった。」などの意見があることから、地域についての理解を深める上で、前橋中央通り商店街でのフィールドワークは有効であり、自分の地域に目を向けるきっかけとなった。

(4) 課題

- 学校連携型での実施だったが、参加者の中には本事業で初めて顔を合わせる生徒もいた。事前に連携校に参加者の実態を聞き取り、本所での探究活動が始まる前にアイスブレイクの時間を設けるとグループでの探究活動が活発になり、話し合いが深まると考えられる。
- 講義・演習②「地域課題の探究」の個人思案において、実践活動の行動計画がより具体的となるよう、職員の支援を参加者の進捗に応じて積極的に行う必要がある。

担当：山田 堯輝、平田 潤